

令和2年度 豊玉高校

郷土探究報告書

◎目次

- ・1学年!・・・ 1～24ページ
- ・2学年♪・・・25～42ページ
- ・3学年★・・・43～60ページ



1. 1学年!

郷土学習について

令和二年九月十七日に古式大祭奉納舟グロ-に参加しました。和多都美神社での舟グロ-は六年ぶりに行われました。二つのチームに分かれて200mの距離でその速さを競いました。

練習では、安田さんのご指導の元、体育館で基本的な舟のかじ取りを学んだあと、声出しや息の合わせ方などを学び、その他にも実際に海へ出て2回本番通りの状況で練習をしました。相手チームは息が合っていて上手に漕げていましたが、私たちのチームは中々息が合わず真っすぐに漕ぐことができませんでした。私たちが元気がない中、キャプテンが「声出そう」などと励ましてくれたので頑張ろうと思いました。



本番当日は、コンディションが悪く、漕げるか不安でした。ですが、練習の時よりも皆声を出して、一生懸命取り組むことができました。練習で勝ったことない相手チームに勝つことができ、決勝に行けたのでとても嬉しかったです。この舟グロ-を通して、皆と協力する大切さを知りました。



11月18日には、校外郷土学習に行きました。今年、中対馬町をバスで回りました。一番印象に残ったのは海ゴミです。海ゴミについて巴山剛さんに講話をしていただきました。実際海に行ってみるといっばいごみが落ちていました。班に別れて楽器を作り、海ゴミを利用して演奏しました。演奏できるか不安でしたが皆で楽しく発表することができました。色々なごみを使い演奏するのはとてもいいことであることに加え、ゴミの量も減るのでとてもいいと思いました。



私は、郷土学習を通して、仲間と協力することの大切さを学びました。お互いに声をかけあって楽しみながら舟グロ-や校外学習に取り組めたからです。そしてこの郷土学習があることで、今まで知らなかった対馬のことをより深く知ることができたので良かったです。



～郷土探究から学んだこと～

私たち一年生が行ってきた郷土探究は、舟グローと校外郷土学習とSDGs です。この三つを通して私は、「集団の息を一つにすることの難しさ」と「対馬の魅力」を知ることができました。

まず、舟グローでは最初に和多都美神社の神主をされていらっしゃる平山さんにお越し頂き、舟グローの歴史などについて講話をいただきました。



六年ぶりの奉納ということで、不安とワクワクが入り混ざり胸がいっぱいでした。練習では、艫が外れたり、漕ぐのにコツが必要だったり苦戦することが多々ありました。また、掛け声も教わりましたが、みんな息が合わず声を合わせることから苦労しました。

そんな中で迎えた、和多都美神社古式大祭（舟グロー奉納日）では、台風後の大雨の中びしょ濡れになりながらも無事、盛大に舟グローを奉納することができました。



校外郷土学習では、中対馬をバスで回りました。初めての校外学習でワクワクしながら、最初の訪問先である養蜂家の扇米稔さんのご自宅に向かいました。

蜂にも多くの種類があり、育て方も様々で、普段知ることのできない知識を得ることができました。

次に、酪農家の内山琢巳さんが使用している酪農場を訪れました。



内山さんは、対馬市の上県町佐護の出身で、高校を卒業後、5年ほど自衛官として勤務したのちに対馬に帰郷しました。叔父さんが畜産農家ということもあり、小中学生の頃に手伝いをした経験も活かせる牛飼いの道へ進み、研修期間を経て独立し今は一人で25頭の牛を育てているそうです。

最後は、海ごみについて巴山剛さんから実演等を交えながら講話をしていただきました。海岸線に投棄されたごみで楽器を作り、プチ演奏会を開催しました。ゴミでも何かしらに使えるんだなと実感することができた時間でした。

以上のことを通して、対馬のことをいろいろな観点から知ることができたのでよかったなと思います。これを機に対馬の魅力をさらに発見し、たくさんの人に知ってもらえたら嬉しいなと思います。

舟グローを終えて

私たち1年生は約6年ぶりに和都美神社古式大祭に参加させていただきました。私は、舟グローが初めての体験だったので舟グローがどういうものなのか全くわかりませんでした。

しかし、和都美神社の神主である平山さんが私たちのために来校してくださり、舟グローについて詳しく教えてくださったおかげで舟グローについて深く知れることができました。



平山さんのお話を聞き、何週間か後に体育館での練習が始まりました。主に体育館では漕ぎ方や掛け声を学びました。

私は序盤の練習で周りのみんなより上手く漕ぐことができなかつたので、本番への不安や「もうしたくない」という気持ちが出てきました。しかし、指導員の安田さんや、上手なクラスメイトにアドバイスを貰えたので諦めずに頑張りました。そうすると練習を重ねる度に段々上達していきました。そのため、終盤の方では序盤にあった本番への不安や「もうしたくない」という気持ちは無くなりました。あの時、諦めずに練習に取り組めたことは自分にとって成長につながりました。

私たちは体育館での練習期間が終わった後本番で使う海での練習期間に入りました。海での練習は体育館の練習とは違い、実際に海で行うため最初の頃はとても苦戦しました。

最初の頃は、舟に縄をつけ舟と地上とを繋いだまま漕ぐ練習をしました。体育館とは違い波があつたりするため苦戦しました。

しかし、海での練習は体育館の練習より気合が入り声もしっかり出せたとし、楽しくできました。そのため、どんどん周りも自分も上達していきました。そして、終盤のほうの練習では縄を外し本番さながらの練習を行いました。縄を外しての練習は思うような方向に全く行かず困りましたが、安田さんのアドバイスを受けるにつれ思うような方向に行くようになりました。

そして迎えた本番はあいにくの雨でしたがみんなしっかり声が出せていたし、接戦だったため非常に楽しいレースができました。



私は、今回の舟グローを通して仲間と協力してなにかを行うことは自分を成長させてくれるものになると改めて実感しました。舟グローで学んだ協力性などはこれからの学校生活で生かしていきたいと思います。

対馬の自然との触れ合いを通して学んだこと

私たち1年1組は9月17日の古式大祭奉納舟グローに参加しました。舟グローの説明を聞いて、準備や練習に取り組みました。



練習で実際に舟を漕いでみると、波に揺られて、不安定で怖かったです。舟を漕ぐためのろが何回も外れて、戻すことが大変でした。力の調節もなかなか上手くできず、不安な気持ちでいっぱいでした。チームのみんなでしっかり声を出し合いながら、練習に取り組むことができました。



練習を積み重ねて、本番を迎えました。本番は天候が悪く、雨が降っていました。雨の中でも、チームのみんなで声を出し合いながら、ゴールまで向かい、相手のチームに勝つことができましたので良かったです。

11月18日には、校外郷土学習に行きました。養蜂、酪農、海洋環境について、学びに行きました。養蜂では、対馬の日本のミツバチについてお話を聞きました。ロイヤルゼリーは女王蜂の餌だそうです。酪農では、生の牛を初めて見ました。牛は、1日朝と夜で牧草の塊を10個食べています。



空のペットボトルを使って、講師の巴山剛さんから教わりながらオリジナルの楽器を作った。最後は班に分かれて演奏会をしました。



郷土学習を通して、対馬に住んでいながら、知らなかったことを発見し、学ぶことができました。対馬はたくさんの魅力で溢れていると思うので、魅力や自然を大事に守っていかうと思います。

舟 グ ロー

僕は、舟グローについて総合的な探究をしました。舟グローの練習をしてみて、感じたことは、時に1人のタイミングがずれてしまうと、櫓を漕ぐみんなが櫓を漕ぐタイミングずれてしまうので、とても難しいということです。櫓で漕いでいる時、外れたら、付けるとき櫓がとても重いので大変です。舟グローの練習は、6回ほどしました、練習をしていくたびに、少しずつ上手くなっていきました。



舟を漕ぐときは、コツが必要でつかむものにとっても、苦戦しましたが、コツをつかんでいくうちに上達していきました。そして、本番まで練習に励みました。



舟グローの練習では、海の上で行うので安全を考慮して、ライフジャケットをつけます。櫓を漕いでいる時に櫓の小さな木が、手に刺さるので、軍手などをして櫓を漕ぎます。練習をしていると、汗がすごいでタオルなど持っていくようにしました。



そして本番当日、僕は熱で舟グローには出れなかったけど、みんなの話を聞いて舟グローの難しさや、みんなの心を一つにする事の難しさを改めて感じる事ができました。

舟グローを通して感じたこと

私たちは、和都美神社で6年ぶりになる舟グローを郷土学習で行いました。

和都美神社の禰宜である平山さんに講演をしていただいた時には、舟グローの歴史や舟を漕ぐときの役割などを学びました。

一回目の練習では、海には出ず、体育館の中で行いました。そこでは、櫓を漕ぐときの姿勢や掛け声の練習を行いました。櫓についている縄を緩ませず、かつ体全体を使って漕ぐことが必要になってくるので、腕力と体力が求められました。実際に行った時には、櫓は重く簡単に外れてしまい、想像以上に難しいものでした。また、声を出して漕ぐのはとても体力を使うので本番は体力が持つか不安を感じました。



実際に海に出たのは体育館での練習から数週間ぶりのことで、久しぶりの練習になりました。最初は、海の上でするといっても、縄をつけ沖に出ずに行いました。体育館で練習したときより舟の上は不安定で、水の抵抗もあり、櫓がより重く感じました。初めのほうは、全員の息が合っておらず、舟が左右に大きく揺れてしまうことが多く不安定でした。



縄を外して沖に出たときは、想像していたよりもまっすぐ進めず、行きたいところにいきませんでした。練習を重ねるにつれ、全員の息が合ってきてまっすぐに進めるようになりました。

初めて舟グローをすると聞いたときは、とても長い期間かけて練習をするのだと思っていましたが、実際にしてみると、本番まであっという間に過ぎていきました。



本番は生憎の雨でした。練習していたときは晴れの日ばかりだったので、雨の日に海に出て漕ぐのは初めてでした。雨が降っているのに、櫓がいつもより滑りやすく、これまでのようにスムーズに漕ぐことが困難でした。

勝ったチームは卯麦の方と一緒に漕いだのですが、卯麦の方はやはり手馴れていて、速く進む姿に驚きを隠せませんでした。



私達の班は惜しくも負けてしまいましたが、とてもいい経験になりました。

舟グローを通して、様々な方々に支えられていることを実感し、代々続いている伝統を受け継ぐことの素晴らしさとやりがいを感じることができました。この経験を活かし、次につなげていきたいと思いました。

SDGsについて

私は今回の郷土探究で、SDGsについて学びました。SDGsとは、「持続可能な社会に向けた目標」で、全部で17個目標が存在しています。その中で、私たちの班は、ジェンダー平等、人や国の不平等をなくす、平和と公正をすべての人に、という3つの目標について調べました。



「ジェンダー平等を実現しよう」は、女性の権利を尊重するため、女性差別をなくすために必要な目標です。現状は、男女の給料の差が大きいというのがあげられます。その差は、男性が女性の1.5倍になっていて、女性の方で働きに出ている人が少ないだろうとはいえ、こんなに差が出るんだなと思いました。



「人や国の不平等をなくそう」は、その名の通り不平等をなくすために必要な目標です。現状は、世界的に差別が残っている国や地域がたくさんあるというのがあげられます。自分と少しでも違っていれば見下して自分が上であると

思い込んでしまうのは人間の性だとは思いますが、違っていてもその人は同じ人間なのだから、仲良くしてほしいと思います。



「平和と公正をすべての人に」は、人類全員で世界平和実現に取り組むために必要な目標です。現状は、世界のどこかで5分に1人子供が暴力で亡くなっているというのがあげられます。その暴力の内容は紛争や虐待です。大人が引き起こした争いで子供たちが巻き込まれて亡くなっていると知って、とても悲しくなりました。

「ジェンダー平等を実現しよう」、「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公正をすべての人に」を調べて、最初は無関心で他人事だったけど調べているうちに、どれだけの人が苦しんでいて、この3つの目標の達成がどれだけ大事かよくわかりました。この目標が少しでも早く達成できるように自分たちにできることを調べてみるといういろいろでてきて、その中でも募金だったら自分でも簡単にできるなと思ったので、買い物でたお釣りなどの少額でも苦しんでいる人たちのために出そうと思いました。今回はこの3つの目標を調べたけど、ほかにもSDGsには達成すべき目標があるので、他の班が調べていないであろう目標について、暇なときにでも調べてみたいなと思いました。

～郷土探究で学んだこと～

私は、郷土探究を通して対馬の伝統を深く知ることができました。

まずは、和多都美神社の管理をしている平山さんに昔のこと（伝統）について話していただきました。舟グローの講話を聞き、2つのグループに分かれて話し合い役割を決めて練習に取り組みました。練習では、中々うまくいかずうまくいく方法はないのかお互いアドバイスしながら考えました。それから何度か練習し本番を迎えました。



練習では相手チームに勝てたことがありませんでした。本番ではあいにく雨が降りましたが、いつもよりも声を出してみんな力を合わせて頑張り、相手チームにも勝つことができました。決勝戦で一般の方とも勝負をすることができたのでとても良い経験になりました。



次は、小川さんと巴山さんの郷土講話を聞き校外郷土学習を行いました。



校外郷土学習では「養蜂」や「酪農」、「海ゴミ楽器」について学びました。

「養蜂」では、扇さんが蜂の種類や性格、昔と今の違い重箱の工夫などを教えてくださいました。

「酪農」では、内山さんが牛を育てる時の日常やその日常でなければいけないことなど教えてくださいました。細かな所まで教えてくださいましたのでとてもわかりやすかったです。

「海ゴミ楽器」は、巴山さんが自然ゴミ（ペットボトル、シーグラスなど）を使っての楽器作りを教えてくださいました。グループに分かれて楽器を作り、楽器で演奏を考えみんなの前で発表しました。私は5人グループでしましたが、みんなと楽しみながら取り組めたので良かったです。



舟グローで学んだこと

僕は総合で、舟グローを学びました。まず講演会がありました。そこでは、舟グローの歴史をしりました。2000年ぐらいまで和多都美神社で行われていましたが、若い人たちが少なくなればらく開催されていませんでした。ですが、去年ぼく達の代で開催することができました。

まず体育館で、舟のろを漕ぐ練習をしました。以外にも、舟のろは重くきつかったです。ある程度慣れたら神社近くの海に行き舟をロープで固定し練習をしました。海の波がありものすぐ体力が奪われこちらの練習もきつかったです。



そして僕は、舟を漕ぐ上でもっとも重要な舵取りを任せ他のところとは、波が大きい為、舵を変える時が一番きつかったです。その練習が終わったら、ようやく舟に付けていたロープを外して海の沖で、練習しました。そこの練習では、みんな慣れていたようで、教えてもらっていた人からも上手だねとの言葉をもらって嬉しかったです。

本番では、あいにくの雨で舟のろは滑るし足場は滑るし最悪のコンディションでした。でも練習をたくさんしていたおかげで、いいレースをすることができました。あとで、見ていた人にきいたらすごく良かったよとの言葉をもらえてうれしかったです。



僕が舟グローをやってみて思ったことは、最初は、舟グローのことがよく分からなかったのですが歴史を、学んだり、練習をたくさんしたら徐々に興味がわいて本番では、ものすごくいい行事になってよかったです。また機会があればやりたいです。



郷土学習で学んだこと

私は今回の郷土学習で、校外郷土学習に行ったり、舟グローをしたりして、今まで知らなかった対馬の歴史をたくさん知ることが出来ました。

校外郷土学習では、養蜂、海ゴミ楽器、酪農見学に行きました。

養蜂では、対馬でしか行われていない養蜂の仕方について学んだり、蜂の豆知識をたくさん教えて頂いたりしました。



舟グローは、たくさん練習して大変だったので、一番印象に残っています。初めて話を聞いたときは、意外と簡単だと思っていましたが、やってみると想像以上に難しく、みんなに置いていかれるんじゃないかと思いました。だけど、チームのみんなが優しく声をかけてくれたので、最後まで頑張れました。

練習では自分たちのチームがずっと勝っていたのに、本番では負けてしまったので、とても悔しかったです。また機会があったらこのクラスでもう一度やりたいです。



海ゴミ楽器では、海岸に捨てられたゴミで楽器を作って、グループに分かれて演奏会をしました。今までゴミを見ても何とも思いませんでしたが、今回の体験で、ゴミを見つけたら少しでも拾おうと思いました。

酪農では、牛について話していただきました。今までなんとなく食べていた牛ですが、いろいろな人のおかげで食べられていることを改めて実感しました。



郷 土 探 究

僕たちは、郷土探究で舟グローと校外学習に取り組みました。

まず、舟グローは、初めての取り組みということもあって神主さんからの話を聞いたときにはとてもワクワクして早くやってみたいと思いました。



練習は思ったよりきつく、何回か漕ぐだけで腕が疲れました。漕ぐのは息を合わせるのも大切で、協力することの大切さを改めて感じました。



本番では、雨の中で漕がなければならず大変でしたが、とても貴重な体験ができて舟グローをさせていただいた方々に本当に感謝しています。もし、これからも何か手伝えることがあれば協力したいです。

校外学習では、中対馬をバスで回りました。初めての校外学習でみんなとてもワクワクしていました。最初に向かったところは、養蜂を行っている扇さんのご自宅でした。



蜂を育てるには、蜂洞を作ったたくさんの蜂を集めることから始めます。蜂にはたくさんの習性があり、それを考えて蜂洞の置く場所や害敵対策をしないといけません。普段経験することのないことを学べて蜂が好きになりました。



海ごみでは、楽器を作り、作った楽器では、「ポン」「カン」と音がなり、その音を使って班ごとに演奏をおこないました。昔から海は汚れていると感じていて、どうにかしてきれいにできないかと、思っていました。でも海ごみを再利用できることを知ったのでごみを使って何かの役に立てていけたらいいと思いました。

この活動を終えて、今対馬では人が足りなかったり、海に大量のごみが流れ着いたり危険な状況なので、何とかこの問題を解決できるように今対馬にいる若い人たちが手を組んで、この対馬をもっと良い島にしたいと思いました。

郷土探究を通して感じたこと

私は、郷土探究で上対馬をバスで回り養蜂場や酪農や海に行きました。養蜂場では、蜂の飛び方や蜂の特性などについて学びました。

私が、びっくりしたことは、オスの蜂は針を持たないということです。そして、蜂は人間を癒す効果を持っていると知って、凄いと思いました。



酪農では、牛の親や子牛を見学しました。とても可愛かったです。牛は体の調子を整えるために、鉱塩をなめていました。酪農は、たくさんのお金が必要で大変だなと思いました。しかしその分やりがいがあるから、できることだと思いました。



海では、海のゴミを拾ってきてそのゴミを使って楽器にしてチームに分かれて、演奏会のようなことをしました。ペットボトルを使って、楽器を作りました。ペットボトルのキャップに栓を入れ、空気を少しずつ入れながら音を自分の好きな高さに調節していきました。いろいろな物を楽器にできることを知って面白いなと思いました。



楽器演奏会では、楽器の他に手拍子なども入れて楽しく演奏しました。どのグループも工夫して演奏していました。



校外郷土学習でいろいろなことを発見することができ、日々の生活ではあまり行けない所に行けて、とてもよい経験ができてよかったです。対馬の生き物について知ることができよかったです。

郷土学習で学んだこと

一年生は和多都美神社で6年ぶりに開催される対馬伝統の和船競漕を体験しました。

最初は神主の方に講話していただき、和多都美神社の舟グロ船は昔、自分が住んでいる小千尋藻のイルカ漁に使われていたと知り、とても関心を持ちました。



何度も練習と試行錯誤を重ねてみんな上手くこげるようになりました。時には手にまめができたり、猛暑の中で船を漕ぐのはきつかったですが、本番では、クラス全体で協力することが出来ました。



舟グロをすることは、初めてのチャレンジで不安だったけどやり遂げることの達成感を味わうことができ、みんなが喜ぶ顔を見ると私も自然と笑顔になり、元気もらいました。舟グロをきっかけにみんなとの仲が深まりました。とても良い体験をすることができました。

11月18日に郊外郷土学習に行きました。

講師の扇さんに養蜂についてお話していただきました。

蜂洞の形は昔と今で形が違ふことや、対馬のハチは体が比較的小さいことなど、たくさんの知識を得ることができ、とても興味深かったです。



たくさんの種類の巣箱があって、見せてもらうとハチが活動していて、おとなしい性格と聞いていたけど、近くで見るのは初めてだったので刺されないか不安でした。



私は郷土学習を通して、対馬で仕事をするには、自分が行動しないと始まらないということに気づきました。この経験を学校生活に生かしていきます。

校外郷土学習を通して

校外郷土学習でいろんな所に行って、いろいろなことを学びました。訪問した所は、豊玉町田の養蜂・峰町三根の酪農・峰町木板の海神神社での海ゴミ楽器作りです。そこで、三ヶ所行って学んだことを簡単にまとめました。

まず、豊玉町田の養蜂に行って日本ミツバチについて学びました。



養蜂で、教えてもらったことは日本ミツバチの性格がおとなしいということです。私のハチのイメージは、攻撃的な感じがありました。しかし、思ったイメージと違い驚きました。

対馬の日本ミツバチをこのように守っているおかげで今も日本ミツバチが絶滅していません。私は、ミツバチのことを知ってこれからミツバチに対するイメージを変えたいと思います。

次に、峰町三根の酪農に行って牛について学びました。行くと、犬と猫がいました。なぜ、いるのかと聞くと害獣対策として飼っているということを教えてくださいました。



牛が、出荷するまでに大切なことを教えてくださいました。牛は人間より成長するのが早く、10ヵ月で大きくなるそうです。一日朝と夜で牧草の塊を10個食べています。えさは、乾燥されていて、重さは8キロもあります。それを聞いて私はびっくりしました。

最後に、峰町木板の海神神社での海ゴミ楽器作りに行きました。



海ゴミ楽器を作るときにペットボトルに栓をつけて膨らませいろんな音を作り班に分かれて発表しました。班でそれぞれ特徴のある演奏やパフォーマンスを見ることができてびっくりしました。

校外郷土学習を通して、対馬の知らなかったことを学べてよかったです。

この一年間の郷土探究

私は、この一年間の郷土探究で、さまざまなことを学んできました。

まず一つ目は、舟グローをしました。和多都美神社の舟グローは、2015年で休止してしまっていました。私たちは、最初は初めてで何をするかわからず、漕げませんでした。体育館の練習で、マットの上で漕ぐ練習をしたり、講師の方に漕ぐ方法を教えてもらったりしました。



本番では、あいにくの雨で不安がありました。練習のおかげでうまく漕ぐことができました。舟グローはいい経験になりました。



二つ目に、郷土学習にいきました。はちみつの採取、海ゴミの再利用、酪農を見学にいきました。はちみつの採取では扇さんの長年の経験や蜂の歴史について聞くことができました。



酪農では、ウシの育て方や売り方について学び、すべての工程が難しく、厳しい世界だと思いました。

海ゴミの再利用では、ペットボトルを使って高い音や低い音を奏でることができました。家でもやってみたいと思います。



～郷土探究で舟グローをしてみても～



最初の授業では、和多都美神社の神主である平山さんに、舟グローの説明をして頂きました。舟グローを対馬で行うのは6年ぶりと聞いたので、自分自身心を躍らせ、どんな感じなのだろうと想像しながら、楽しみにしていました。



舟グローの最初の練習は体育館で行いました。押すときは、体に近づけること、引くときは手を伸ばし体全体で引くことを教わりました。そのときは、漕ぐのが初めてで、櫓が外れることが多く、難しい印象を持ちました。

その次は、立ち位置を確認しながら、先ほど教わった漕ぎ方で一分間「エイサー」とみんなで息を合わせ大きな声で掛け声をかけて漕ぎました。私は、そのとき声を出しすぎて声が枯れてしまいました。



舟に乗り（舟は陸地とロープで、繋いであります）漕いでみました。漕いでみると櫓が水の影響でとてもおもく、体育館で漕いだときより、紐を緩ませないように漕ぐのが難しく櫓が何度も外れてしまいました。けれど、チームみんなで声を合わせ、動きを合わせ楽しく過ごせたので良かったです。



この写真は、初めて本番のスタート地点まで行き、そこから実際に勝負した場面です。

いざスタートしてみると、練習の時とは、比較にならないくらい沢山外れてしまいました。けれど、勝つことができたので良かったです。



本番当日は雨が降っており雨具を着用した状態で行いました。雨が降っている状態での舟グローは初めてで、本番前は練習通りにできるか不安でした。いざスタートすると、櫓が雨を吸って練習よりも重く、外れたときに付け直すのが大変でした。この日は2・3年生も見に来ていて緊張しました。結果は、負けてしまいましたが、緊張しながらもしっかり声をだし、息を合わせ、動きを合わせチームみんな、豊高みんなで楽しいひと時が過ごせたので良かったです。



最後は、片づけをしました。練習のときは、いつも準備・片づけをしてくださっていたので、わからなかったけど、本番終了後片づけをしたら、とても大変だったので、練習の時準備・片づけをしてくださっていた方々にはとても感謝しています。

郷土学習で学んだこと

今回の郷土学習では、舟グローをしたり、校外郷土学習に行ったりして、対馬の歴史の奥深さや、伝統を受け継ぐことの大変さを知ることができました。

舟グローでは、私の担当はあやきりで、舟の先端に立ちぼんぼんを持って漕ぎ手を鼓舞する役割があります。実際、舟に乗って先端に立った時、あまりの不安定さに恐怖心がこみ上げてきました。本番は、予想外の雨で舟が滑り、艫の揺れと波の影響で海に落ちるのではないかととても不安でした。ですが、全員で声を出し合い、観客の方々を楽しませることができたのではないかと思います。



酪農では、牛についてお話していただきました。牛1頭を買うには100万~200万の費用がかかるそうです。えさを食べた後に、口周りをべろべろなめる癖がある牛は病気にかかっているということも教えていただきました。

海ゴミ楽器体験では、海岸のいろんなゴミとペットボトルを使って演奏体験をしました。ゴミを探しにいくと、対馬のゴミより韓国や中国のゴミが多いことに気づきました。海ゴミをなくすには、国境を越えて取り組まなければいけないと改めて感じました。



校外郷土学習では、まず養蜂について学びました。養蜂では、扇さんに対馬の蜂堂のつくりや、蜂の豆知識などについて教えていただきました。

ミツバチは病気にかかるらしく、サックブルドウ病というそうです。さらに、3日間ロイヤルゼリーを与えると女王蜂が生まれることや、7月が1番蜜を持っていること、対馬でとれた蜂蜜は約2万円以上の値がつくことなども教わり、とても良い経験ができました。



【まとめ】

私が今回の郷土学習で学んだことは、海ゴミ問題を少しでも解決するためにゴミを楽器にしたり、対馬の伝統を守るために時間を削って私達に指導してくださったり、たくさんの方々が対馬を守ろうとしてくださっているおかげで、私達は幸せに暮らせているんだ、ということです。

郷土探究について

私たちは、今回の郷土学習で「舟グロー」について学びました。まず講演会を行っていただき、舟グローの概要を学びました。



最初の練習では、縄を繋いだ状態で行いました。縄を繋いだ状態でも漕ぐのはとても困難でみんなの息が合わず、舟が揺れて本番までに漕ぐことができるのか不安になりました。また、櫓も重く大変でした。



次の練習では、前回の練習より少し沖に出て練習しました。練習の成果が出たのか前回より舟が安定して揺れが少なくなりました。練習を手伝ってくださった安田さんに櫓を漕ぐコツを教わりました。手首を反したり、膝を使ったりするといいいと言われ、やってみるとうまく漕ぐことができました。練習を続けていると手に肉刺ができてとても痛く、漕ぐことが困難になりながらも漕ぎ続けました。

そして舟グロー本番、生憎の雨の中合羽を着た状態で挑みました。中止になるか心配になりましたが開催されてよかったです。



私たちのチームは相手のチームに練習の時は全勝していたので本番も大丈夫だろうと思いきや安心していませんでした。スタートして最初はリードしていたものの途中から波の影響なのか、みんなの櫓が支点から外れ舟のバランスが崩れだし、相手チームに追い抜かれてしまいました。折り返しから巻き返そうと頑張ったものの追いつけず負けてしまいました。



私は、講演会を行って戴くまで舟グローのことについて全く知りませんでした。体験する前は簡単そうだなと思っていました。実際に体験してみると、漕ぐのはとても難しく、力があることが分かりました。講演会で話されており、私は5分漕いただけで疲れてヘトヘトになっていたのに昔は何時間も漕いでいてとても尊敬しました。昔は大変だったんだなと自分が体験してみても思いました。これからもこの伝統が長続きしてほしいと思いました。

舟グローで経験したこと

1. 舟グローについて

長崎では中国から伝わったペーロンが有名ですが、対馬では漁村に古くから伝わる伝統行事、「舟グロー」が、お祭りの出し物や行事として残っています。舟グローの意味は、「舟くらべ」が訛ったものだと言われています。

この船は1船につき漕ぎ手が10名必要で、漕ぎ手は、前後の人と逆の漕ぎ方をしないといけません。船首に立って漕ぎ手を鼓舞するあやきりや、掛け声、太鼓、柏木などで漕ぎ手のリズムを合わせる手木船尾に船の進行方向を調整する舵取りからなり、全員のチームワークが大切な競技となっています。

掛け声は、1、2と言い息を合わせて行いました。



2. 舟グローで経験したこと

私が舟グローで経験したことは、たくさんの方の協力が大切だということです。

みんなの櫓を引くタイミングが合っていないと早く進めないで全員で息を合わせることがとても大切です。本番では、天候が悪く練習とは違って波が荒く漕ぐのが少し難しかったのですが、最後までやり遂げることができました。

片付けに関しても、地域の方々や校長先生など、多くの人と協力して、大型の舟を収めることができました。時間はかかりましたが、きれいに船を戻すことができました。

これからも人と協力することを大切にしていきたいです。



郷土探究で学んだこと

今回私たちは郷土探究の時間で、昨年まで人数の関係上実施できなかった“舟グロー”を体験することができました。

まず私たちは、和多都美神社の神主である平山さんを講師にお招きし、和多都美神社と“舟グローの歴史”について、お話を聞きました。



舟グローの歴史について学んだ私たちは和多都美神社古式大祭本番に向けて、練習を始めました。



体育館での練習では船の櫓に慣れるために漕ぎ方、姿勢の確認、疑似的な配置の確認を行いました。



疑似船

体育館練習を繰り返した後、私たちは本番で使用する船に乗り、練習を開始しました。



A班、B班ともに櫓をこぐタイミングが合わず苦労しましたが、班で協力して一生懸命頑張りました。私は本番の少し前の練習から櫓のこぎ手になり、水中では体育館での練習とは異なり、水圧による抵抗が強くこぐのがとても大変でした。

何回か練習した後、和多都美神社古式大祭本番の日が来ました。当日はあいにくの雨になってしまいましたが、雨雲を吹き飛ばすぐらいの元気と喝で白熱した勝負となりました。

大祭本番はA班対B班で競争しました。練習段階ではB班が安定して進んでいてB班が勝つと思われていましたが、本番では予想していたようにはならずA班が根性を見せ、見事勝利を収めました。



感想

今回郷土探究の時間で舟グローを体験できたこと、舟グローの歴史に触れられたことがとてもいい経験になりました。チームで協力すること、みんなで息を合わせることも大変さを学ぶことができました。

郷土学習を通して感じたこと

私たちは、郷土学習でバスに乗って木坂の御前浜に行ってペットボトルの打楽器を作り、演奏会を行いました。

初めは、「私たちにも楽器を作ることができるのかな？」と不安がありました。実際に巴山剛さんが楽器の材料を準備してくださっていて、作り方なども教えていただき、思っていたよりも少ない材料ですぐに一つの楽器を作ることができるのだと学ぶことができました。



実際に、私たちも楽器を作らせていただきました。まず、ペットボトルのふたにつけた黒い筒状のプラスチックを道具を使って引っ張って少し外に引きだします。その時に、二人で取り組んでお互いに同じ力を加えて引っ張らないと出てこないのとても大変でした。

次に、ペットボトルに空気を入れました。ペットボトルがかたくなるまで、空気をいれました。そのあとに、空気を抜き、音程の調整をしました。



そのあとは、いくつかのグループに分かれて楽器を使った演奏を考えて練習をしました。その時に、御前浜の海岸に流れついている物を使用していたグループもありました。仲間と一緒に一つの演奏を考える楽しさと難しさを学びました。

練習がある程度終わると演奏会をしました。全員の前での演奏はみんな緊張していました。

トラブルがあったり練習があまりできていなかったりしてその場で話し合っ少し時間がかかった班もありました。皆の前での発表は、とても緊張して失敗しないかと不安でしたが、最後までやりとげることができたので良かったです。



～校外郷土学習を通して～

わたしたちが作った楽器は材料も含めて身近なもので短時間にすぐできるのだと初めて知りました。私たちにとっては初めての体験で仲間と楽しく取り組めた良い経験になりました。また機会があれば楽器を仲間たちと作りたいなあと思いました。

一年間の郷土探究

舟グローとは和船競争のことで、和多都美神社では海からの「神招き」として、奉納行事の氏子集落が和船を沖合から漕いで執り行ってきます。しかし、地域の高齢化や過疎化を受け2015年以降は休止していました。

私たちは、総合的な探求の時間に舟グローについて学習しました。1船につき漕ぎ手は10人、あやきり1人で行ないます。



私は、舟グローを通して協力することの大切さを学びました。全員が櫓を漕ぐタイミングを合わせないと、まっすぐ進むことが出来ません。また、準備や片付けなども、地域の方々の協力があったからこそ、スムーズに出来たのだと思います。今回学んだ、協力することの大切さを忘れずに生活していきたいです。



11月18日に郷土学習で、養蜂、海ごみ、酪農について学びました。

対馬のハチミツはとても貴重で高価なことが分かりました。スズメバチは日本ミツバチの敵であることも分かりました。



対馬には、たくさんの海ごみが流れ着いています。海ごみを拾って楽器を作る活動をしました。その活動で楽器の代わりになりそうな海ごみを探しに行った時に、流れ着く海ごみの多さを、改めて実感しました。



今年1年間の総合的な探究は対馬のことを知るいい機会になりました。対馬にも課題があることが分かり、プラスチックをリサイクルに出すなど、自分にできることから取り組んでいきたいと思いました。

郷土学習で感じたこと

9月17日に和多都美神社で古式大祭があり、奉納行事の舟グローが6年ぶりに復活しました。本番で成功するために平山さんの話を聞き、体育館で漕ぐ練習をしました。実際に沖にでて漕いでみると難しかったですが安田さんや講師の先生のおかげで本番うまく漕げたので良かったです。舟グローは2015年以降休止していましたが、豊玉高校1年生が復活させることができ良かったです。



僕は1、2回しか練習に参加しておらず漕ぐことはできませんでしたが、前で声を出すことができたので良かったです。舟グローを通して、みんなで協力することの大切さを知ることができました。1年生の絆が深まったので良かったです。



11月18日は、郷土学習に行きました。蜂蜜の採取、海ゴミの再利用、酪農を見学しにいきました。蜂蜜の採取ではハチを育てるのは簡単だと思っていたけど、場所や巣などが関係していて案外難しいと思いました。



畜産では、牛の世話は難しいし、育てるまでが長いので牛を飼育しているのはすごいと思います。

海ゴミの再利用では、海によくおちているペットボトルから楽器を作りました。作るのには時間がかかったり音の調整などが難しかったりしましたが完成して良かったです。



SDGsについて

私は、三学期にSDGsの取り組みについて調べる活動を行いました。

その中で貧困と飢餓について調べました。



まず、貧困について調べました。

貧困とは、生きていくうえで最低限必要な食料さえ確保できず、尊厳ある社会生活を営むことが困難な状態を指します。

貧困とは?

原因

- ・子どもの数に対して学校の数が少ない
- ・子どもが家計を支えるために働く
- ・学費や教材費が払えない
- ・学校の設備が整っていない
- ・教育を受けていない親が多く、教育の大切さが理解されない。

貧困の原因として上の五つが挙げられます。また、私は世界が貧困な地域で行っている取り組みについて調べ、このようなものがあることがわかりました。

世界が行っている取り組み

○食糧の支給や農作物の作り方を教えるなどの支援



○医療スタッフが現地へ行き治療をする



貧困について調べていく中で感じたことは、多くの地域で貧困に苦しまされている人が大勢いることです。そこで、今後募金などをして少しでも貧困に苦しまされている人たちの役に立っていきたいと思いました。

次に、飢餓について調べました。

飢餓とは、長期間の空腹により栄養不足や生活が困難になっていく状態のことを指します。今世界で飢餓に苦しむ人は約10億人おり、日本には、飢餓のイメージはあまりないと思いますが、20人に1人の割合で飢餓を経験した人がいます。その中に、生活保護を打ち切られた方や収入が極端に少ない方などがいます。

このような現状の中で世界が目標にしているゴールは下図のようなものです。

世界の目標(ゴール)

▶ 世界では

飢餓、栄養不足をなくす!

そのために

持続可能な農業、利益を生み出す

飢餓について調べ、世界だけでなく日本にも飢餓があることを初めて知り驚きました。また、今回の学習を通して飢餓に苦しんでいる人が多くいることを知ったので、今後おにぎりアクション(自分がおにぎりを食べている写真や作った写真をサイトに投稿することでアフリカやアジアの子供たちに給食が届くという制度)を使って飢餓に苦しんでいる人助けしていきたいと思いました。

